神戸新聞
発行所 神戸新聞社
郵便番号 650-8571
神戸市中央区東川崎町1-5-7
http://www.kobe-np.co.jp/
1月28日(木)

伝える 震災21年

阪神・淡路大震災の被災地を元気づけようと2001～02年、市民らの笑顔の写真展を開いた男性が、地震から丸21年の17日、撮影に参加した人たちと長田区で「同窓会」を開いた。この日集まったのは当時3～35歳だった女性8人。まちの復興とともに歩んだ約15年間を笑顔で振り返った。（今泉欣也）

15年前、被災者らモデルに写真展
変わらぬ笑顔の同窓会

長田 女性8人、再び撮影も

撮影したのはアートディレクター水谷孝次さん(64)＝東京都。震災復興記念事業として神戸市内で約2千人の笑顔をカメラに収め、写真集を作ったり、ポスターにして駅や市役所、工事現場に掲げたりした。

昨年、震災20年を迎えた神戸から世界に笑顔を届けようと、新長田地区でイベントを開催。その際、同窓会を思いつき、写真集に載った人に呼び掛けた。

水谷さんと女性たちは同窓会当日、同地区の若松公園・鉄人広場に集まった。近況を報告し合った後、当時の笑顔の写真を手に、同伴した家族らとともに再び笑顔を撮影した。

東灘区の自宅が全壊した扇真由子さん(38)は介護福祉士。現在は後進の指導に取り組む。「笑顔が、前を向いて進もうという気持ちにさせてくれた」と振り返る。

兵庫区の栄田麻帆さん(22)は幼稚園教諭になった。いつも園児と笑顔で接することを意識しているといい、「機会を見つけて地震のこと、命の大切さを伝えている」そうだ。

当時97歳の最高齢モデルだった森シクさんは104歳で他界した。この日は孫の順子さん(55)＝北区＝が参加し「自宅が被災し、本当に大変だったけれど、水谷さんの撮影で家族が久しぶりに自然に笑えた。温かい気持ちになった」と懐かしんだ。

水谷さんは「震災を乗り越え、15年間頑張ってきた一人一人に笑顔で希望と勇気を与えられていたことを知ってうれしい」と話した。

アートディレクター水谷さん

笑顔の写真を撮影した女性たちと水谷孝次さん(左)＝いずれも長田区若松町6

家族や来店者を励まし元気に

同窓会に参加した山田奈々江さん(35)＝兵庫区＝の笑顔の写真は、祖父が震災後に再建した金物店で飾られ、家族や来店者を元気づけてきた。15年間ほぼ笑み続けるもう一人の自分に、山田さんは最近、新たな刺激を受けたという。

震災で、同区三川口町の山田さん宅、長田区の祖父母が住む金物店などが全壊した。家族は全員無事だったが、不自由な暮らしは多感な中学生にとって「つらく、嫌な日々だった」という。

2001年夏、看護系の大学に通っていた山田さんは、大学近くのヒマワリ畑で開かれた笑顔の撮影会に、姉の付き添いで参加。カメラを構える水谷孝次さんに促され、写真に納まった。

愛らしい笑顔の写真。祖父・秋良さんは気に入り、店の一番目立つ場所へ飾った。笑顔が家族を励まし、いつしか震災の話をするきっかけともなった。山田さんは子どもたちに「亡くなった人のためにも頑張って生きていこうね」と語り掛ける。

山田さんは大学卒業後に看護師となった。西市民病院（長田区）に9年間勤務。育児休暇をへた昨年10月、悩んだ末に退職した。同窓会を前に写真を見ていて、あるメッセージに気付いた。「nurse」（看護師）。夢に向かって猛勉強を重ね、やる気に満ちていた当時の熱い気持ちがよみがえった。「もう一度頑張って、復職してみようかな」

同窓会には2人の子どもたちと参加。15年前の写真を手にした山田さんの笑顔は一層輝いていた。（今泉欣也）

水谷孝次さんから15年ぶりに笑顔を撮影してもらう山田奈々江さん

兵庫区の山田奈々江さん